

事務事業名		大船渡ポートサイド高等学校バレーボール選手権大会運営支援事業			☐ 実施計画登載事業		☐ 合併建設計画登載事業				
政策体系	政策名	06: 豊かな心を育む人づくりの推進			事業期間		予算科目				
	施策名	29: 生涯スポーツの振興					会計	款	項	目	事業
	基本事業名	03: スポーツ・レクリエーション活動の振興					01	10	06	01	05
根拠法令	スポーツ振興法										
所属	部課名	教育委員会事務局生涯学習課			☐ 単年度のみ ☒ 単年度繰返 (開始 平成 8 年度 ~) ☐ 期間限定複数年度 [計画期間] 年度 ~ 年度 全体計画欄の総投入量を記入						
	係名	体育振興係	電話	27-3111							
			内線	275							
事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述) ・当市出身の元バレーボール全日本代表栗生澤淳一氏を顕彰し、高校生のバレーボールの競技力向上と青少年の健全育成を目的として開催している。 ・市は、主催団体の一つとなり大船渡市体育協会と連携して事務局として、大会運営全般を行っている。 ・事業費は、大会実行委員会への補助金である。						全体計画(期間限定複数年度のみ)					
						総投入量 (千円)	事業費 内訳	国庫支出金			
								都道府県支出金			
								地方債			
								その他			
								一般財源			
								事業費計(A)	0		
人件費	正規職員従事人数										
	延べ業務時間										
	人件費計(B)	0									
	トータルコスト(A)+(B)	0									

1 現状把握の部(DO)

(1) 事務事業の目的と指標		活動指標(事務事業の活動量を表す指標)	
手段(主な活動)		名称	
前年度実績(前年度に行った主な活動)		単位	
大船渡ポートサイド高等学校バレーボール選手権大会		ア	実行委員会開催回数
			回
今年度計画(今年度に計画している主な活動)		イ	参加高等学校チーム数
前年度同様			チーム
		ウ	うち大船渡市内高等学校参加チーム数
			チーム
対象(誰、何を対象にしているのか)*人や自然資源等		対象指標(対象の大きさを表す指標)	
・岩手県高校総合体育大会バレーボール競技ベスト16以上のチーム		名称	
・実行委員会推薦チーム(気仙地区の高校ほか)		単位	
		カ	大会参加者数
			人
意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)		キ	うち大船渡市内高校の参加者数
競技力の向上が図られる。			人
		ク	
		成果指標(対象における意図の達成度を表す指標)	
		名称	
		単位	
結果(基本事業の意図:上位の基本事業にどのように貢献するのか)		サ	実施試合数
スポーツ・レクリエーションが活発に行われる。			試合
		シ	市内の県高校新人戦ベスト8出場校数
			校
		ス	

(2) 総事業費・指標等の推移		年度	17年度(実績)	18年度(実績)	19年度(実績)	20年度(実績)	21年度(目標)	22年度(目標)
投入量	事業費内訳	単位						
		千円						
	国庫支出金	千円						
	都道府県支出金	千円						
	地方債	千円						
	その他	千円						
	一般財源	千円	500	300	300	200	200	200
	事業費計(A)	千円	500	300	300	200	200	200
	正規職員従事人数	人	1	1	1	1	1	1
	延べ業務時間	時間	5	5	5	5	5	5
	人件費計(B)	千円	20	20	20	20	20	20
	トータルコスト(A)+(B)	千円	520	320	320	220	220	220
活動指標	ア	回	2	2	2	2	2	2
	イ	チーム	16	19	28	28	20	20
	ウ	チーム	2	3	3	4	3	3
対象指標	カ	人	420	460	452	420	500	500
	キ	人	32	51	47	50	50	50
	ク							
成果指標	サ	試合	41	57	26	34	30	30
	シ	校	1	2	1	1	2	2
	ス							

事務事業ID	1011	事務事業名	大船渡ポートサイド高等学校バレーボール選手権大会運営支援事業
--------	------	-------	--------------------------------

(3) 事務事業の環境変化・住民意見等

この事務事業を開始したきっかけは何か？いつ頃どんな経緯で開始されたのか？

平成4年に開催されたバルセロナ・オリンピックにバレーボール日本代表として出場した本市出身の栗生澤淳一氏を顕彰し、高校生のバレーボールの競技力向上と青少年の健全育成を目的として平成8年から開催されている。

事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)は、開始時期あるいは後期基本計画策定時と比べてどう変わったのか？

高校の定期考査や新人戦・高校総体の時期を考慮し、本大会の開催時期を調整している。

この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか？

市内の高校からは、県内の大会が減少しているも中で貴重な大会であることが評価されているが、開催時期については定期考査と重なり参加できない高校があることから、検討するよう要望が寄せられている。例年、県民体育大会少年の部に出場する学校が、県高体連バレーボール専門部の推薦チームとして参加対象としていたが、平成20年度から少年の部が廃止となること、また推薦チーム以外の学校から参加希望があることから、参加対象校をどのように設定するか、検討を要する。

2 評価の部(SEE) * 原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的 妥当性 評価	政策体系との整合性	☐ 見直し余地がある [理由] 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 結びついている [理由] この事務事業の目的は本市の政策体系に結びつくか？意図することが結果に結びついているか？ 大船渡高校女子チームが平成19年度県新人大会・全国選抜大会県予選で優勝し、全国大会へ出場するなど、競技力の向上が見られる。
	公共関与の妥当性	☐ 見直し余地がある [理由] 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 妥当である [理由] 高校生を対象としたバレーボールの大会は新人戦や高校総体など数が限られることから、競技の場を提供することにより(高等学校体育連盟バレーボール専門部では、バレーボール大会として認知されている)、バレーボールの競技力の向上が望めるとともに、青少年の健全育成が図られる。
	対象・意図の妥当性	☐ 見直し余地がある [理由] 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 適切である [理由] 対象を限定・追加すべきか？意図を限定・拡充すべきか？ 全県レベルの大会が減少しているも中で、競技力の向上のために必要な大会である。
有効性 評価	成果の向上余地	☐ 向上余地がある [理由] 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 向上余地がない [理由] 成果を向上させる余地はあるか？成果の現状水準とあるべき水準との差異はないか？何が原因で成果向上が期待できないのか？ 開催期間2日間のできる試合数は限られることから、これ以上の成果向上余地はない。
	廃止・休止の成果への影響	☐ 影響無 [理由] 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 影響有 [その内容] 高校生バレーボール競技者の出場機会の減少から、競技力の低下が予想される。 事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？
	類似事業との統廃合・連携の可能性	☐ 他に手段がある (具体的な手段, 事務事業) ☐ 統廃合・連携ができる [理由] 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☐ 統廃合・連携ができない [理由] 高校生を対象とした市内のバレーボール大会はほかにない。 ☒ 他に手段がない [理由]
効率性 評価	事業費の削減余地	☐ 削減余地がある [理由] 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 削減余地がない [理由] 成果を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など) 市からの補助がなければ大会開催ができない。
	人件費(延べ業務時間)の削減余地	☐ 削減余地がある [理由] 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 削減余地がない [理由] やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？成果を下げずにより正職員以外の職員や委託でできないか？(アウトソーシングなど) 市内高等学校のバレーボール部員の協力もあり、今以上の効率化は難しい。
公平性 評価	受益機会・費用負担の適正化余地	☐ 見直し余地がある [理由] 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 公平・公正である [理由] 事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？ 参加料は1チーム5,000円としており、過去に試合数の増加に応じて値上げした経緯がある。

事務事業ID	1011	事務事業名	大船渡ポートサイド高等学校バレーボール選手権大会運営支援事業
--------	------	-------	--------------------------------

3 評価結果の総括と今後の方向性(次年度計画と予算への反映)(PLAN)

(1) 1次評価者としての評価結果 (2枚目と整合を図ること) <table border="1"> <tr> <td>目的妥当性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>有効性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>効率性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>公平性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> </table>		目的妥当性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	有効性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	効率性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	公平性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	(2) 全体総括(振り返り、反省点) 男子16校・女子12校が参加し、女子では、大船渡高校が準優勝した。									
目的妥当性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																					
有効性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																					
効率性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																					
公平性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																					
(3) 次年度の方向性(改革改善案)・・・複数選択可 (ただし、廃止・休止・現状維持は重複不可) ☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 目的再設定 ☐ 事業統合・連携 ☒ 現状維持 事業のやり方改善 (☐ 有効性改善 ☐ 効率性改善 ☐ 公平性改善) (上記方向性に対する具体的な内容) 今年度同様に継続して事業を実施する。		(4) 改革・改善による期待成果 左記(3)の改革改善案を実施した場合に期待できる成果について該当欄に「●」を記入する。 (廃止・休止の場合は記入不要) <table border="1"> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td>●</td> <td>×</td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持		●	×	低下		×	×
		コスト																					
		削減	維持	増加																			
成果	向上																						
	維持		●	×																			
	低下		×	×																			
(5) 改革改善を実現する上で解決すべき課題とその解決策又は特記事項等 																							

4 事務事業の2次評価結果

(職名)	原則として施策の主管課長	(氏名)
2次評価者	生涯学習課長	

(1) 1次評価結果の客観性と出来具合 記述水準(1次評価の記述内容を読んだ段階で選択) ☐ 記述不足でわかりにくい ☐ 一部記述不足のところがある ☒ 記述は十分なされている 評価の客観性水準(2次評価を行った後に総合的に判断して選択) ☐ 客観性を欠いており評価が偏っている(事務事業の問題点、課題が認識されてない) ☐ 一部に客観性を欠いたところがある ☒ 客観的な評価となっている(事務事業の問題点、課題が認識されている)																							
(2) 2次評価者としての評価結果 <table border="1"> <tr> <td>目的妥当性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>有効性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>効率性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>公平性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> </table>		目的妥当性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	有効性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	効率性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	公平性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	(3) 評価結果の根拠と理由 適切な事務事業執行がなされている。									
目的妥当性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																					
有効性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																					
効率性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																					
公平性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																					
(4) 次年度の方向性(改革改善案)・・・複数選択可 (ただし、廃止・休止・現状維持は重複不可) ☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 目的再設定 ☐ 事業統合・連携 ☒ 現状維持 事業のやり方改善 (☐ 有効性改善 ☐ 効率性改善 ☐ 公平性改善) (上記方向性に対する具体的な内容) 現状どおり継続して事務事業を実施する。		(5) 改革・改善による期待成果 左記(4)により期待できる成果について該当欄に「●」を記入する。また、1次評価と内容が異なる場合には、1次評価の結果も「○」で記入する。 (廃止・休止の場合は記入不要) <table border="1"> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td>●</td> <td>×</td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持		●	×	低下		×	×
		コスト																					
		削減	維持	増加																			
成果	向上																						
	維持		●	×																			
	低下		×	×																			

5 最終評価結果

(1) 行政経営推進会議等での指摘事項
